

財務諸表の金額の読み方

簿記会計、財務諸表では、桁数の大きな金額を扱います。たとえば、1 億円、100 億円、1 兆円などです。ここでは、金額の読み方のポイントを説明します。

簿記会計、財務諸表では、金額を表示するときに、3 桁毎に、“,” (コンマ、カンマ) で数字を区切ります。これを 3 桁区切りといいます。“,” (コンマ、カンマ) は、小数点を表す“.” (ピリオド) とは異なる記号ですので、間違っ使用わないように注意してください。

100 (百)

1,000 (千)

10,000 (1 万)

100,000 (10 万)

1,000,000 (100 万) 全 7 桁。 8 桁の電卓・計算機は、1000 万の桁まで計算できます。

1,000,000,000 (10 億) 全 10 桁。

1,000,000,000,000 (1 兆) 全 13 桁。 12 桁の電卓・計算機は、1000 億の桁まで計算できます。

コンマのすぐ左の数字に注目して、数字を読むと、1 から 1000 倍ごとに次のような規則になっています。

1,000 (千)	thousand	サウザンド	全 4 桁	0 が 3 桁	コンマ 1 つ
1,000,000 (100 万)	million	ミリオン	全 7 桁	0 が 6 桁	コンマ 2 つ
1,000,000,000 (10 億)	billion	ビリオン	全 10 桁	0 が 9 桁	コンマ 3 つ
1,000,000,000,000 (1 兆)	trillion	トリリオン	全 13 桁	0 が 12 桁	コンマ 4 つ

コンマ 2 つ目のすぐ左の数字は、100 万の桁とわかっていれば、次のような数字は、下の数字から、一、十、百、千、・・・と数えなくても、すぐに、数字が読めます。

2,500,000 ⇒ 250 万

コンマ 3 つ目のすぐ左の数字は、10 億の桁とわかっていれば、次のような数字もすぐに読めます。

1,500,000,000 ⇒ 15 億

小数点は、“.” (ピリオド) で表し、ピリオド (小数点) 以下の 1 桁目は、小数第 1 位、ピリオド (小数点) 以下の 2 桁目は、小数第 2 位、ピリオド (小数点) 以下の 3 桁目は、小数第 3 位、というようにいいます。

3.14159265358979323846264338

円周率の場合、小数第 1 位は 1、小数第 2 位は 4、小数第 3 位は 1 です。

なお、小数点を表すピリオドと、3 桁区切りのコンマを、両方使って数字を表記する場合があります。

例 1,234.567 (1,234.567)

3 桁区切りの“,” (コンマ、カンマ) と、小数点を表す“.” (ピリオド) は、混同しないように注意してください。

日本円金額を表示するときに、¥（円サイン、円記号）を数字の頭につけて、日本円の貨幣数値であることを表します。

¥100 (百円)
 ¥1,000 (千円)
 ¥10,000 (1万円)
 ¥100,000 (10万円)
 ¥1,000,000 (100万円)
 ¥1,000,000,000 (10億円)

数字の後ろに「円」を付ける場合もあります。

100 円 (百円)
 1,000 円 (千円)
 10,000 円 (1万円)
 100,000 円 (10万円)
 1,000,000 円 (100万円)
 1,000,000,000 円 (10億円)

仕訳における金額表示

簿記会計の仕訳や帳簿における金額記入では、数字が日本円金額とわかっているため、「¥」も「円」も省略します。

(借方) 水道光熱費 10,000 (貸方) 現金預金 10,000

財務諸表における金額表示

財務諸表における金額の表示は、財務諸表の上部などに、(単位：円) というように、金額の単位を表示し、財務諸表内の数字では、¥も「円」も省略します。

例として、単位が、円の場合は、次のような表記となります。

損 益 計 算 書 (×1年4月1日から×2年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額
売 上 高	100,000
売 上 原 価	75,000
売 上 総 利 益	25,000
販売費及び一般管理費	10,000
営 業 利 益	15,000
営 業 外 収 益	2,000
営 業 外 費 用	1,000
経 常 利 益	16,000
特 別 利 益	500
特 別 損 失	4,500
税 引 前 当 期 純 利 益	12,000
法人税、住民税及び事業税	4,000
当 期 純 利 益	8,000

この例では、単位が「円」ですので、売上高は10万円、当期純利益は8千円です。

4 財務報告論 付属資料

上記の例では、単位が円でしたが、次のような単位の場合があります。

(単位：千円)

(単位：百万円)

例として、単位が、千円の場合は、次のような表記となります。

損 益 計 算 書 (×1年4月1日から×2年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	1,000
売 上 原 価	600
売 上 総 利 益	400
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	100
営 業 利 益	300
営 業 外 収 益	20
営 業 外 費 用	10
経 常 利 益	310
特 別 利 益	20
特 別 損 失	0
税 引 前 当 期 純 利 益	330
法人税、住民税及び事業税	130
当 期 純 利 益	200

この例では、単位が「千円」ですので、売上高は 100 万円、当期純利益は 20 万円です。

数字の1桁目が千となりますので、1桁目から、千、万、十万、百万、と数えていきます。

売上高 1,000 千円 ⇒ 100 万円
 百 十 万 千
 万 万

売上高 1,000 千円 ⇒ 100 万円
当期純利益 200 千円 ⇒ 20 万円

(単位：千円) という表示は、0 を 3 つ、下 3 桁分を省略しているということです。

1,000,000 円 ⇒ 1,000,000 千円
200,000 円 ⇒ 200,000 千円

売上高 1,000 千円 ⇒ 1,000,000 円
当期純利益 200 千円 ⇒ 200,000 円

大企業や上場会社の財務諸表では、単位を百万円、(単位：百万円)、としている場合が多いです。

損 益 計 算 書
(×1年4月1日から×2年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売 上 高	800,000
売 上 原 価	300,000
売 上 総 利 益	500,000
販売費及び一般管理費	450,000
営 業 利 益	50,000
営 業 外 収 益	2,000
営 業 外 費 用	1,000
経 常 利 益	51,000
特 別 利 益	3,000
特 別 損 失	1,000
税 引 前 当 期 純 利 益	53,000
法人税、住民税及び事業税	23,000
当 期 純 利 益	30,000

この例では、単位が「百万円」ですので、売上高は 8,000 億円、当期純利益は 300 億円です。

数字の1桁目が百万となりますので、1桁目から、百万、千万、一億、十億、百億、千億、と数えていきます。

売上高 8 0 0 , 0 0 0 百万円 ⇒ 8,000 億円

千 百 十 一 千 百
億 億 億 億 万 万

売上高 800,000 百万円 ⇒ 8,000 億円 = 800,000,000,000 円
当期純利益 30,000 百万円 ⇒ 300 億円 = 30,000,000,000 円

(単位：百万円) という表示は、0を6つ、下6桁分を省略しているということです。

800,000,000,000 円 ⇒ 800,000,~~000,000~~ 百万円
30,000,000,000 円 ⇒ 30,000,~~000,000~~ 百万円

日本企業の中には、売上高が 20 兆円、当期純利益が 1 兆円、というような規模の大企業もあります。

売上高 20 兆円 = 20,000,000,000,000 円 ⇒ 20,000,000 百万円

当期純利益 1 兆円 = 1,000,000,000,000 円 ⇒ 1,000,000 百万円

単位が百万円で表示された金額の大きい数字を読む場合のポイントは次の点です。

ミリオン

10,000,000 百万円 ⇒ 10 兆円

十兆 一兆 千億 百億 十億 一億 千万 百万

トリリオン ビリオン

単位が百万円という数字の場合、コンマに関して、次のようになっています。

1つ目のコンマのすぐ左の数字は、10 億の桁となっています。これは、百万はミリオンで、ミリオンに0を3つ付ける（1,000 倍する）と、ビリオン（10 億）になるから、というように覚えておきます。

1,000 百万円 ⇒ 10 億円

2 目目のコマのすぐ左の数字は、1 兆の桁となっています。これは、百万はミリオンで、ミリオンに 0 を 3 つ付ける (1,000 倍する) と、ビリオン (10 億) になり、ビリオンに 0 を 3 つ付ける (1,000 倍する) と、トリリオン (1 兆) になるから、というように覚えておきます。ミリオン、ビリオン、トリリオンで、トリリオンは 1 兆です。

1,000,000 百万円 ⇒ 1 兆円

単位百万円の場合、コンマ1つ目のすぐ左の数字は、10億（ビリオン）の桁とわかっていれば、次のような数字は、下の数字から百万、千万、一億、十億、・・・と数えなくても、すぐに、数字が読めます。

800,000 百万円 \Rightarrow 8,000 億円

(コンマ1つ目のすぐ左から、十億、百億、千億、と数えます。)

単位百万円の場合、コンマ2つ目のすぐ左の数字は、1兆（トリリオン）の桁とわかっていれば、次のような数字は、下の数字から百万、千万、一億、十億、・・・と数えなくても、すぐに、数字が読めます。

20,000,000 百万円 \Rightarrow 20 兆円

(コンマ2つ目のすぐ左から、一兆、十兆、と数えます。)

アメリカ企業の英語の財務諸表では、大企業の場合、100万ドル表示となっています。
単位の表示は、(In millions)、というように表示されています。

たとえば、THE COCA-COLA COMPANY の売上高の金額は、次のようになっています。

(In millions)	2017	2016	2015
NET OPERATING REVENUES	\$ 35,410	\$ 41,863	\$ 44,294

売上高が日本円に換算して、どのくらいの金額なのかを計算するためには、次の計算式で計算します。

日本円に換算した売上高 = ドル表示の売上高 × 円ドルの邦貨建て名目為替レート

2017

3,989,644,700,000 円 = 35,410 × 100 万ドル × 112.67 円 (2017/12/29)

3,989,644.7 百万円 = 35,410 × 100 万ドル × 112.67 円 (2017/12/29)

3 兆 9,896 億 4470 万円

2017 年の売上高は、日本円換算で 3 兆 9,896 億 4470 万円、ほぼ 4 兆円です。

金額を素早く概算するためには、1ドル100円と仮定すると、100万ドル表示(In millions)の場合は、
1ドル100円 × 100万ドル = 1億円という計算により、金額の1桁目が、「1億円」になります。

35,410 百万ドル ⇒ 約 35,410 億円

一
億
円

(In millions)で\$ 35,410 という金額の場合は、1桁目が「1億円」の桁になりますので、一億、十億、百億、千億、1兆と数えると、3兆5410億円となります。

正確な為替レートが100円ではなく、112円と分かれば、金額を、およそ、1.1倍にして、3兆9000億円から4兆円とわかれば、概算ができたことになります。

為替レート 112 円の場合

約 35,410 億円 × 1.1 倍 ≒ 約 39,000 億円

素早くおおざっぱに金額を把握するために、このような方法を使えばよいです。